



平成28年度 能登高だより



第59号!

今号も紹介します、 生徒たちの学びの旅!



二年団・修学旅行報告

見た！
聞いた！
学びいっぱい！
沖縄の旅！



六月二十七日(月)～三〇日
(木)までの四日間の旅を終えて、二年生が無事に修学旅行から帰ってきました。

一日目は東京での大学見学(普・販売実習(地))を経験し、進路実現に向けて気持ちを新たにしました。二日目は沖縄に向かい、ひめゆりの塔やアブチラガマを見学しました。戦争の生々しい痕跡を目の当たりにして、中には涙する生徒もいたほどです。三日目はホテルのプライベートビーチで海水浴を楽しみ、四日目は首里城で歴史と文化に触れました。

へとへとなつて帰ってきた生徒ですが、アンケートの感想には、「平和や命の大切さを実感した」、「普段話さない人とも距離を縮めることができた」、「自分の新しい可能性を発見できた」、「最高の思い出になった」と、喜びの言葉が溢れていました。



↑ 結団式では、修学旅行の目的をあらためて、再確認。



↑ 販売実習で接客・集客学習にも取り組みました。



↑ 透明度の高い沖縄の美しい海。

能登高校を応援する会 総会を開催しました!

六月二十六日(日)に、能登高校を応援する会総会が開催され、能登町長を始めとする役員の方々が、今の本校が抱える課題と対策について、多くの視点から意見・提案をして下さいました。

未来の展望を見据えた意見が多数を占め、学校・地域のより一層の連携を図っていく方向を確認し、閉会となりました。



声かけ運動で

清々しい朝のスタート!
二十三名の保護者の参加で行いました。保護者から「子どもたちの挨拶に元気をもらいました。」との声がありました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございます。



↑ 闘い抜いた意志の結実!



← 映画の予告編並みの完成度!

生徒会より 北信越大会表彰式、 学校紹介ビデオ 完成お披露目会!

過日、北信越大会表彰式および学校紹介ビデオ鑑賞会が行われました。表彰式の壇上に立った生徒たちにとって、この表彰式は、日頃の努力の結実としての表彰状を手にした、と同時に、更なる自己鍛錬と飛躍を目指す自分との闘いへの決意を新たにする時間でもありました。

学校紹介動画鑑賞では、今までになかった構成で生徒たちの躍動する日々を紹介しており、生徒たちは映像の完成度に満足しているようでした。

地域創造科より

一年生水産コース、
海を教室として

おひとり丸乗船実習
六月十四日、船舶での実習が行われ、乗船体験に取り組みました。幸い、当日は風も強くなく、船酔いの心配も杞憂に終わりました。陸とは全く異なる海の様子を知ることができたのではないのでしょうか。

水産を学ぶ、水産業での活躍を目指す生徒たちにとって、水産業の衰退、周囲の状況は決して穏やかではありません。しかし、この体験を通して、漁獲労働、海洋観測、船舶に関連する活動にも興味・関心を広げてもらいたいと思います。

↓ 地域産業の担い手を目指す
地域創造科



一年団より

6月28日に1年生全員で金沢へ大学・専門学校を見学にいきました。

1組普通科は午前中金沢工業大学へ行き、学校説明を聞いたあと、設備の整った施設や図書館、夢考房を見学しました。午後は金城大学へ行き、保育とりハピリの模擬授業などを体験したあと、新設の看護部がある松任キャンパスの見学をしました。2つの大学の見学中に目に止まったのは、パソコンや机に向かって仲間と勉強に励む大学生の姿でした。進学先の視野を広げるだけでなく、勉学への意識も高まったようでした。

2組は午前中に金沢学院大学を見学しました。学院大学では、大学で学ぶ意義や専門的知識の一部を教えてもらいました。今まで大学・短大を視野に入れていなかった生徒も、大学に行く可能性について考える良い機会となりました。午後からは各種専門学校の見学にいきました。自分の専門性を特化させ、その能力を活かして仕事につく人たちを間近で見学することができました。ある生徒は見学を終えて、「おれ、やっぱり大学に行きたい!」と言い、自分のやりたいことを見つけたようでした。



地域の環境美化、
学校の環境美化、
私たちの手で



保健厚生課より

学年団と強力タッグ、

地域に貢献する高校を目指して一。

清掃ボランティア、再び!

～環境を美しく保つ心を育む～

6月29日(水)、5、6限目の時間を利用して、能登高校の1年生全員で校内・校外の除草作業を行いました。生徒は能登高校の敷地内だけでなく、校外の公道の雑草を時に丁寧に時に豪快に抜き取り、周辺一帯が見やすくなりました。



↑除草作業をする一年生。

地道な作業をとことん!

今は進路実現に向けての準備期間。

テニス部より

北信越大会ソフトテニス 優勝!

6月18日(土)・19日(日)に富山県高岡市スポーツコアにおいて行われた第58回北信越高等学校ソフトテニス選手権大会に男女ソフトテニス部が参加しました。18日の個人戦では、男子は松岡・奥野ペアが第3位、女子は山本・下島が第3位と健闘しました。30度という高温と日照りで気持ちが切れてしまいそうな中、選手たちは最後まで走り、集中して戦いました。団体戦では男子が豪強相手に白熱した戦いを繰り広げ、見事優勝を果たしました。これで男子は団体戦で北信越大会2連覇です。7月28日～8月4日に岡山県備前市で行われる全国総体に向けてこれからも頑張ります。



激闘を制す!



選挙権が18歳以上に



33H 重間 瑞羽

今年から選挙権が18歳以上になり、私は、初めて投票をしました。もう一つ、私は、学校で行われた期日前投票の役員をさせていただきましたが、とても緊張しました。選挙に来た人の名前を確認する仕事でした。最初はとても大変だと思っていたのですが、だんだん慣れて余裕も出てきました。貴重な体験をさせてもらえて自分のためになりました。選挙は、国のためにするので個人の意表を大切にしたいと思います。



自己の進路を考える上で大切なのは、社会の状況、世の中の流れ、時代の趨勢を見極めながら歩を進めていくことです。今日ある職業の半分が二十年后には消滅していると言われるこの時代、それほど安定したものでも、不変でもない、非連続的な世界に挑むには、場面によって自己を変化させ、拘泥を捨て去るタフさも必要であるようです。

人口百人の「世界村」をあてはめると、おおむねこのようになります。

数人は年々増加していますが、短期大学や専門学校に進む人は年々減少し、今では最も多かったころの半分くらいになっています。二十七人が就職し、一人が進学でも就職でもない道に進みます。日本全国で十八歳を迎える、約百二十万人の若者の進路選択に人口百人の「世界村」をあてはめると、おおむねこのようになります。

自己の進路を考える上で大切なのは、社会の状況、世の中の流れ、時代の趨勢を見極めながら歩を進めていくことです。今日ある職業の半分が二十年后には消滅していると言われるこの時代、それほど安定したものでも、不変でもない、非連続的な世界に挑むには、場面によって自己を変化させ、拘泥を捨て去るタフさも必要であるようです。

管理職リレーエッセイ

「自分たちのスタイルに変わったフラルワールドカップでサッカー日本代表は惨敗といつていいほどの結果しか残すことができませんでした。天候、気温、ビラチ、風が試合ごとに違います。戦う相手、システム、ねらい、ゲームの意味が変化します。時間帯や状況によって有効な戦い方を選択することは最早世界の常識になっています。いつでも、どこでも同じ方法を志向する戦い方は、世界に置いていかれたスタイルになりました。」

さて、日本全国に百人の十八歳がいます。四十九人が大学に進学します。六人が短期大学に進み、十七人が専門学校に進みます。大学に進む人は年々増加していますが、短期大学や専門学校に進む人は年々減少し、今では最も多かったころの半分くらいになっています。二十七人が就職し、一人が進学でも就職でもない道に進みます。日本全国で十八歳を迎える、約百二十万人の若者の進路選択に人口百人の「世界村」をあてはめると、おおむねこのようになります。

教頭 大工 高志

主な行事予定



- 1～9日 夏季中期補習(3年)
- 1～2日 自己表現ワークショップ
(3年就職希望者対象)
- 6～7日 3年全統マーク模試

- 9日 体験入学
- 10～12日 学習合宿
- 19～26日 夏季後期補習
- 20日 地域貢献プロジェクト
(ござれ祭り)
- 29～31日 全校登校日



